

芸術学科生の声

芸術学科合格体験記

平成30年度入学 工藤 沙貴

私は中学の頃から美術と理科の授業が好きでした。大学は無難に理系へ進むつもりでしたが、なかなか納得のできる進路が見つからず悩んでいました。そんなとき友人と行った展覧会で、科学と芸術を融合させた作品に出会い、刺激を受けました。アーティストを目指せば美術も理科も両方学べるかもしれない…！そう考えた私は美大の実技系に挑戦しましたが、結果は惨敗。進路変更を決めました。

けれどやはり、理系の進路はどれもしっくりきませんでした。他に自分に合う美術との関わり方はないだろうか。そうして見つけたのが、藝大芸術学科でした。制作の向き不向きに関わらず、美術に関わっていける道。それでいて実技の授業があり、現在進行形で活躍する先生方に制作者の視点を教わることができるのは、とても魅力的でした。また、藝大には科学技術 × 芸術によって文化を育もうという COI 拠点があります。そこに、アーティストの道も理系の道も選ばなかった自分が、将来、科学と芸術との交差点に立てる可能性を見て、藝大受験を決めたのです。

そこから1年間、主に家で勉強しながら、芸術学科の対策を行う塾に通いました。センター試験では、国・英・歴に加え、好きだった理科基礎科目も受験しました。昔から文章を書くことが苦手だったので、二次の小論文には大変苦労しましたが、なんとか合格が決まりました。

入学してみると、周りは皆それぞれ違う関心を持っていて、多才で、濃い人ばかりでした。沢山の刺激を受け、もっと精進しなければと思う毎日です。大学生活は、自分次第で決まりますが、藝大の環境なら、授業や学生交流、イベントを通じて自分の世界を広げることもできるでしょう。美術に少しでも興味がある人は、充実した生活が送れる学校だと思います。



研修旅行（1年次）



基礎造形実技 / 日本画（2年次）



藝祭 神輿パレード（1年次）

芸術学科生の一日

平成29年度入学 角野 文

1・2年次には午前中に実技の授業があり、実技学科の先生がたの一流の技と独特の感性に触れることができます。実際に制作することを通して、作品を生み出す喜びと苦労を自分自身の体で実感する非常に良い機会です。中でも私の記憶に強く残っているのは、1年生の後期に受けた写真の授業です。スマートフォンで気軽に写真を撮り削除できる時代にあって、フィルムカメラで撮った写真を一枚一枚丁寧に手間隙かけて現像するという行為は、作品とじっくり向き合う貴重な体験となりました。薬品と反応した印画紙に、少しずつ画像が浮かび上がってきた時の感動は今でも忘れられません。

そして午後には、美学・美術史や語学の講義を受けます。高校までの授業よりも数倍専門的な内容を短時間で吸収するのは大変ですが、新しいことを学ぶ日々は刺激的で、充実していました。こうして積極的に様々な分野の知識を蓄えることで、より広い視野を持って自分の研究対象と向き合えるようになるのではないかと思います。さらに、教職や学芸員課程の授業もある中で、芸祭実行委員として上野駅のギャラリーでの展示を担当するなど、慌ただしくもやりがいのある毎日を送っていました。

3年生になると、特定のテーマに基づいて研究発表や討論を行うゼミ形式の授業を中心に据え、卒業論文に向けて自らのスキルアップを図ることが求められます。授業の合間の空き時間も各々で過ごし方を決め、有意義なものにしていかなければなりません。研究発表の準備のため図書館や研究室で調べものをする時間が長くなりますが、美術館やギャラリーで実物を鑑賞する時間も大切にしたいと思い、関東近郊の展示情報には常にアンテナを張っておくようにしています。

芸術学科を卒業して

平成24年度入学 辻角 香与

私にとって芸術学科は、自分の興味関心をとことん突き詰めることができた場所です。

私はもともと美術や歴史が好きだったので、芸術学科を選ぶことも自然なことでした。しかし具体的にどの国・時代のどの分野を学びたいとかいう考えはまったくなく、そもそも芸術という限られた学術だけでいいのか、その中から本当に卒業研究などを決めることはできるのかと、悩むこともありました。けれども、芸術と一言で言っても、藝大では芸術に関するあらゆる分野の講義や、絵画・彫刻などの実技実習などを受け、幅広く奥深い世界を知ることができます。また、古美研や、貴重な文化財に直接触れて調査を行うなど、藝大だからこそできる経験も数多くあります。迷った時には、指導教官と心ゆくまで話し合えますし、志をともにする仲間や先輩たちがいることはとても心強いことです。結局、私は院まで進み、自分の興味のあるテーマを追求することができました。もちろん学業だけでなく、藝祭など藝大ならではの行事を含めた学生生活も、とても充実した思い出深いものです。

私は現在、東京の一般企業に勤めています。美術に関する業種ではありませんが、多様な業務を行います。大学の研究とは関連のない分野を扱う場合でも、藝大での経験は自分の糧となっています。なぜなら、大学でも職場でも、さまざまな経験によって自分の興味や得意なことを明らかにし、自分の決めたテーマや課題を実現するために考えて行動するということには、通じるものがあるからです。そこで積み重ねられた発見や成功は、大きな自信となっています。

芸術学科に進む皆さんには、自分の可能性を信じて歩み、この大学・学科でかけがえのない経験を積み重ね、それぞれの誇りとなることを祈っています。

東京藝術大学

美術学部

芸術学科

入試説明会のしおり

AESTHETICS
JAPANESE AND ASIAN ART HISTORY
WESTERN ART HISTORY
HISTORY OF CRAFTS

<http://www.geidai.ac.jp/labs/geigaku/>

入試について

概要 — 2018 年度から日程が変わりました。
科目変更はありません。

大学入試センター試験（3教科・3科目、計600点）、1日目の個別学力検査（外国語・地理歴史、計400点）、2日目の実技検査等（小論文または鉛筆素描（石膏像）、200点）の合計点（1200点）に、出願書類（調査書等）の審査を加えて総合的に可否を判定します。

合格者は、2日目の選択科目（小論文または鉛筆素描）ごとに判定し、合格者数は原則として、小論文と鉛筆素描の受験者数に応じて比例配分します。

なお、詳細については本学入試情報サイトで、本年7月頃公開予定の『入学者選抜要項』、および同11月頃公開予定の『東京藝術大学学生募集要項（美術学部・一般入試）』をご参照ください。

大学入試センター試験 3教科・3科目 計600点	合計1200点	総合的に判定
1日目 個別学力検査 外国語・地理歴史 計400点	+	2日目 実技検査等 小論文または鉛筆素描 200点
	+	出願書類 (調査書等)の 審査

1日目（2月27日）：外国語・地理歴史

1日目の個別学力検査では、入学後の授業において必要となる**外国語**と**地理歴史**の基礎学力をみます。

外国語は、入学願書提出時に英語・ドイツ語・フランス語の3科目から1科目を選択します。原典講読などの授業に対応できる語学能力をみることに主眼を置きます。過去5年間は、各科目とも芸術に関連する150語前後の原文を提示し、日本語訳を作成する問題を2題ずつ出題しています。

地理歴史は、試験開始後に世界史・日本史の2科目から1科目を選択します。美術史系の授業の前提となる基礎知識を問うことに主眼を置きます。個々の歴史事項に関する正確な理解とともに、複数の歴史事象を結びつけて合理的な論述を展開する能力や、高い視点から歴史の流れを大きくとらえる能力をあわせて問います。両科目とも過去5年間は、記述式問題1題（解答用紙はA4罫紙1枚）と語句説明3問（4問から3問を選択、各問とも解答用紙はA4罫紙1枚）を組み合わせる形式で出題しています。

2日目（2月28日）：小論文または鉛筆素描

2日目の実技検査等では、芸術学を学んでいく上で要求されるより専門的な能力をみます。受験科目は、入学願書提出時に**小論文・鉛筆素描**（石膏像）の2科目から1科目を選択します。

小論文は、問題の意図を正確に読み取る理解力や、論旨を組み立てる論理性、説得的な文章を書くための日本語の表現能力をみることに主眼を置きます。このような能力は、入学後にレポートや卒業論文を書く上でも重要になります。過去5年間は、美術作品の図版を見て記述を行うという問題や、芸術作品のあり方について原理的に問う問題（解答用紙はB4罫紙1枚）が出されています。最近の出題例は、次のとおりです（問題文のうち、注意事項などは省略しています）。

2015（H27） スケッチによって気づいたことを中心として、本作について自由に論じなさい。※図版は尾形光琳《八橋蒔絵螺鈿硯箱》

2016（H28） 別紙の図版A、Bはともにキリスト教の「受胎告知」（処女マリアが救世主キリストの懐胎を告げられる場面）を描いています。両作品の表現を比較して、見る者に伝えられる意味や感情の相違について論じなさい。※図版はフラ・アンジェリコ《受胎告知》、ボッティチェリ《受胎告知》

2017（H29） ポピュラー文化と芸術の関係について論じなさい。

2018（H30） 美術作品における「金（きん）」のもつ意味や機能について論じなさい。

2019（H31） 美術と鏡について自由に論じなさい。

鉛筆素描は、対象を正確に観察して素描する基礎実技の能力を問うことに主眼を置きます。3時間という限られた時間の中で、石膏像のかたちや空間を的確にとらえ、再現的に表現する実技能力をみます。最近の出題例は、次のとおりです。

2014（H26） 年度：ブルータス
2015（H27） 年度：あばたのヴィーナス
2016（H28） 年度：グデア
2017（H29） 年度：青年マルス
2018（H30） 年度：あばたのヴィーナス
2019（H31） 年度：パルテノンのヴィーナス

鉛筆素描 合格者の作品



手首 2 個



グデア

入学後のまなびと進路

入学後のまなびについて — 美学研究室、日本・東洋美術史研究室、西洋美術史研究室、工芸史研究室 —

芸術学科のカリキュラムの特色は、なんといっても美術の実技を藝大各科の教員から学べることにあります。

学部の1・2年次には、版画、油画、写真、日本画、彫刻などをアトリエで学ぶことになります。実際に手を動かすことで、美術作品を見つめる眼差しが次第に変化していくことに気がつくことでしょう。本や図版から得られる情報以上の、対象を瞬時に把握する能力が養われることは間違いありません。

現代の作品と向き合う時には、自分の中の「制作者」が自ずと立ち現れてくるのを実感できるはずです。実技は午前中に週3回、午後は講義や演習で専門的な知識を学ぶことになります。ほとんどの授業が大学院生も含めた全学年の混合授業であるのも藝大の特徴です。演習（いわゆるゼミ）では、課題を与えられて発表する形式の授業が多いのですが、上級生や大学院生の発表を参考に配布資料やプレゼンのテクニックなどを実践的に学ぶことができます。しかも、1年次から演習に参加することも可能で、芸術学科では入学すると同時に専門的な授業に触れることができるのです。最初は難しいと感じるかもしれませんが、先輩や教育研究助手たちのサポートも受けながら、次第に研究を実践できるようになっていきます。

美術史や美学を学ぶには外国語も重要です。低学年のうちに集中して語学を習得してください。英語の他に、フランス語・ドイツ語・イタリア語を上級まで学ぶことができます。また、日本・東洋古典語を学ぶ授業も用意されています。

卒業生の進路

芸術学科卒業生の進路は多岐にわたり、様々な分野で活躍しています。なかでも、美術館や博物館の学芸員として働く卒業生は多く、その活躍ぶりと評判はよく知られているところです。学芸員となった卒業生は、165名を数え（2014年現在）、卒業生の総数に比して最も多くの学芸員を生み出していることで有名です。これが、「**学芸員なら芸術学科**」といわれる理由です。

学芸員への道

芸術学科への入学を希望する受験生の皆さんにも、将来、学芸員になりたいと思っている方が多いのではないのでしょうか。芸術学科では、学芸員になるための基礎をしっかり学ぶことができます。学芸員は専門職であるため、深い知識と資格が必要です。学芸員の採用に際しては、多くの場合、大学院を修了していることが条件となっています。そのため、学部での勉学を終えた後、さらに大学院の美術研究科に進学して専門性を深めることが一番の近道でしょう。芸術学科を卒業する20名のうち、毎年、半数近くが大学院に進学しています。

その他の道

ギャラリーや出版社、新聞記者、美術雑誌のジャーナリストなど、美術に関係する仕事に多くの卒業生が就いています。新聞社やテレビ局などの文化事業部と呼ばれる部署は、展覧会の企画や運営を行うことから人気があります。先輩のなかには、経験を積んで、世界的に有名なギャラリストとして新人作家を発掘、あるいはビエンナーレのような国際美術展を組織するキュレーターもいます。

国際的に活躍するアーティストも生まれています。学問だけではなく、実技も学ぶことができる芸術学科ならではのでしょう。藝大ではアーティストの卵に囲まれて学生時代を過ごすことができるので、学問だけでなく同世代からの芸術的な刺激にもたいへん恵まれています。

学問を続けたい人は、大学院で修士論文や博士論文の執筆を目指すのもいいでしょう。研究者として活躍する卒業生も多数います。本学のみならず日本中の大学で芸術学科を卒業した教員が教鞭を執っています。

2年次には、古美術研究旅行（通称「古美研」）が待っています。「古美研」は、東京美術学校の時代、明治38年頃にはじまった伝統ある見学授業で、美術学部全学科の必修科目です。2週間合宿して近畿地方の古社寺や美術館を教員とともに巡ります。非公開の国宝や重要文化財を見学できるのも、長い伝統と先輩たちが築いてきた信頼の証だと言えるでしょう。

4年次には**卒業論文**を執筆します。3年次に執筆題目と指導教員を決め、1年以上かけてしっかりと取り組むのが芸術学科の伝統です。卒業論文に全力で取り組むことが、芸術学科の卒業生たちが社会で活躍している秘訣なのかもしれません。

芸術学科では9人の専任教員が皆さんの入学を待っています。美学と美術史の分野に関してこれだけの数の教員を揃えている大学は他に見られません。教員1人あたりの学生数8.9人（学部定員／教員数）という少人数教育が実現されていることから、入学後の学生の満足度が高いのも当然かもしれません。



演習授業風景



研究風景



古美術研究旅行（2年次）

《主な就職先一覧》

【学部卒業者】

NHK
岡崎市役所
国立天文台
コム・デ・ギャルソン
小山登美夫ギャラリー
サンゲツ
小学館
JR東日本ステーションリテイリング
電通
東京国際フォーラム
東京都庁
東宝
特許庁
凸版印刷
早川書房
フィルムアート社
ベネッセホールディングス
ポプラ社
横浜市芸術文化振興財団
読売広告社 など

【大学院修了者】

群馬県立館林美術館
国立新美術館
国立西洋美術館
サントリー美術館
静岡県立美術館
島根県立美術館
東京国立博物館
東京都美術館
長崎県美術館
奈良国立博物館
ポーラ美術館
横浜美術館
クリスティーズジャパン
朝日新聞社
新潮社
美術出版社
大阪大学
学習院女子大学
東京大学
立教大学 など